

第3回共助社会づくり懇談会メンバーによる意見交換会(2014.6.20)

共助社会に向けた ボランティア機会の創出

大阪ボランティア協会

事務局長 水谷 綾

はじめに：大阪ボランティア協会

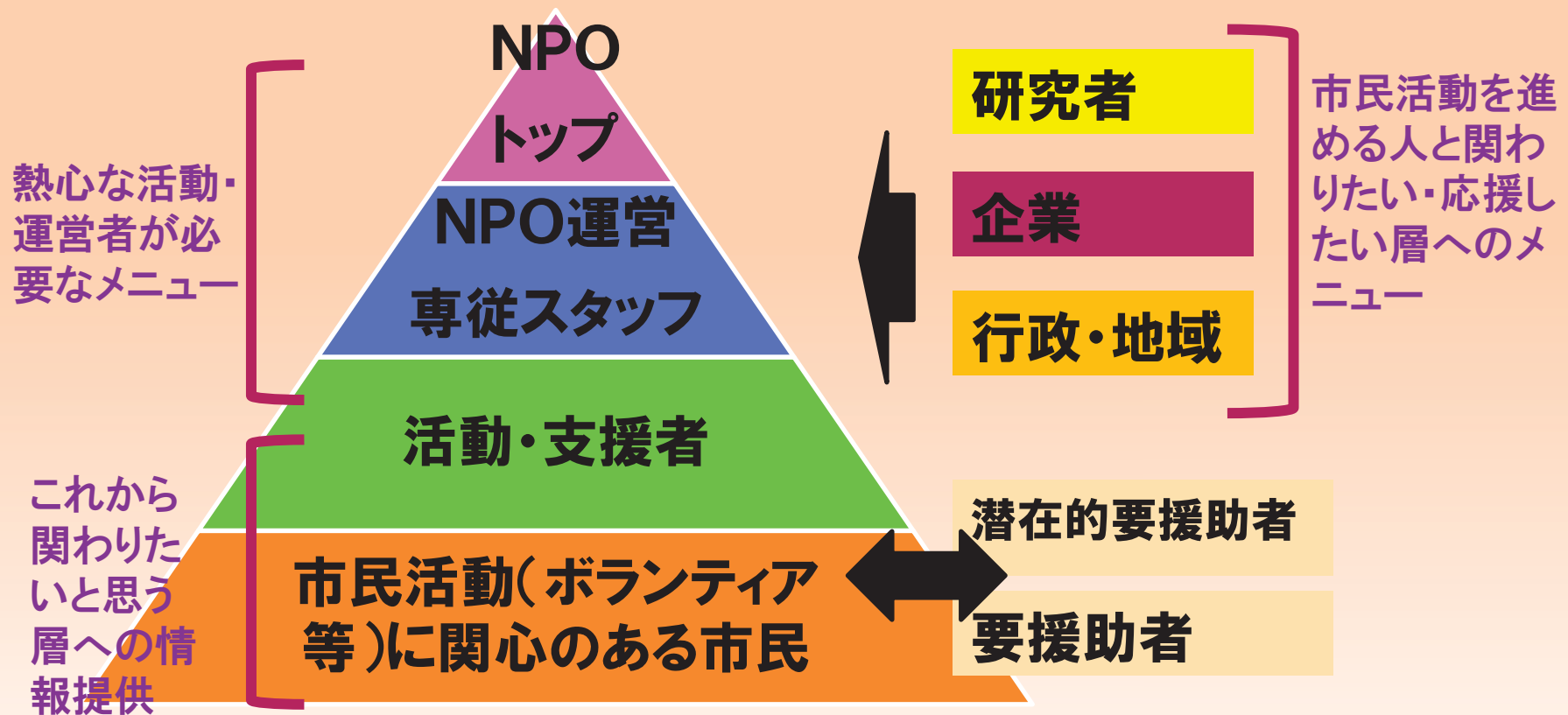
<http://www.osakavol.org>



- 1965年、全国に先駆けて誕生した民間の市民活動サポートセンターです。
- 参加型運営とボランタリズムによる市民社会の創造をめざし、ボランティアに関する事業開発や啓発活動を進めてきた。日本ボランティアコーディネーター協会の設立にも参画。今年度の全国ボランティアコーディネーター研究集会は大阪で、2月に開催。
- ボランティア・NPO推進センター、企業市民活動推進センター、情報出版・ボランタリズム研究所の3つの部門にて、約150人のボランティアスタッフと10人の有給職員が、ボランティア(グループ)やNPO、企業の市民活動の推進に取り組んでいます。
- 個人会員645人、団体会員(パートナー登録団体含む)180団体(2013年度実績)

はじめに：大阪ボランティア協会

<http://www.osakavol.org>



「人」のつながり×「人」の成長の社会へ

『共助社会づくり』とは、「市民がつながり、活力と共助の精神にあふれる社会をつくっていくこと」ではないか。

〈参考〉共助社会とは、人々が能力を発揮できる経済・社会（第1回共助懇）

NPO法人に期待する役割

Q. NPO法人に対してどのような役割を期待していますか。（複数回答）

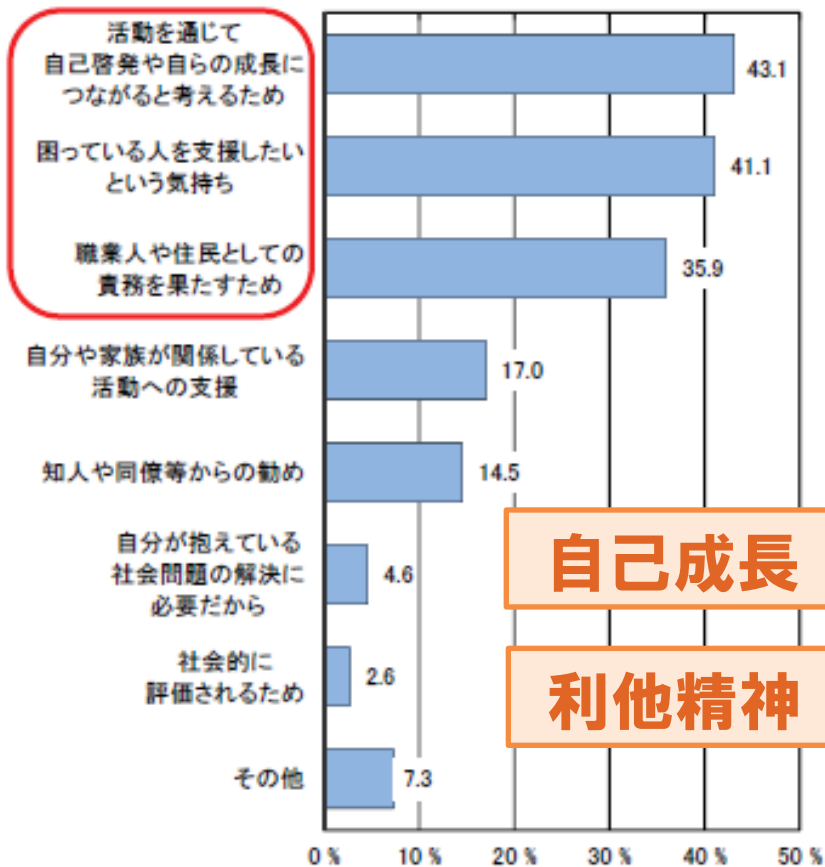


（備考）内閣府 平成25年度「NPO法人に関する世論調査」により作成。

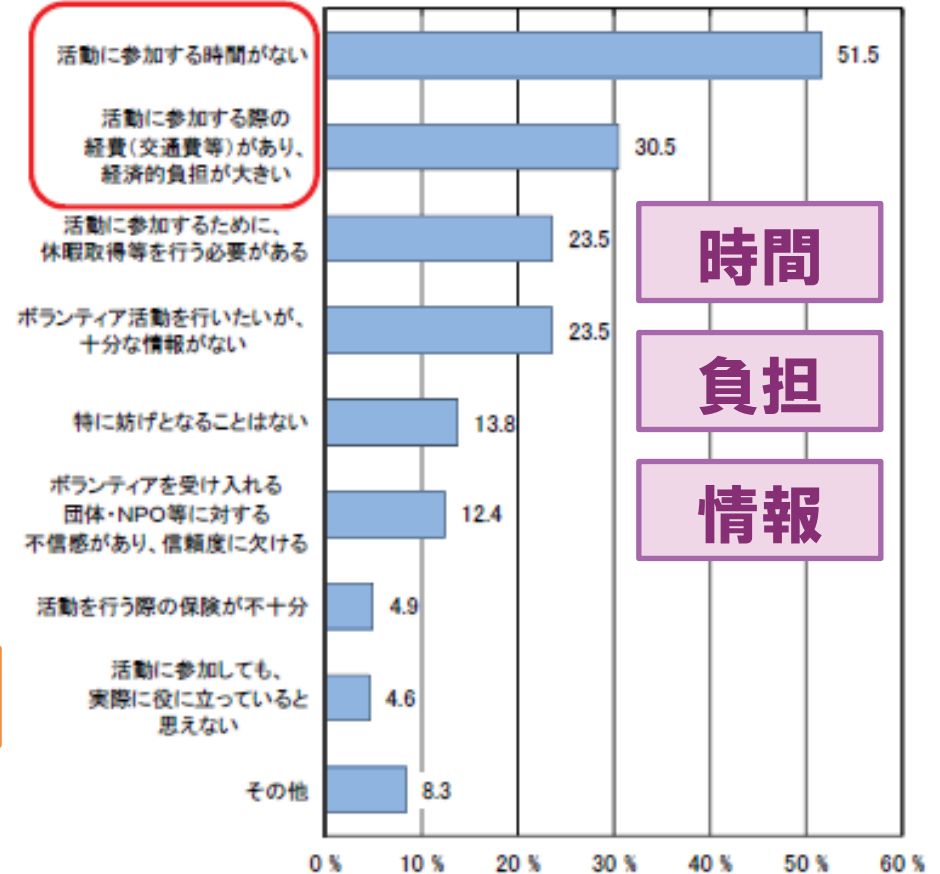
～「人」のつながり×「人」の成長の社会へ～

関心6割 参加3割 : 不参加3割の背景

【参加理由】(n=1,028)(複数回答)



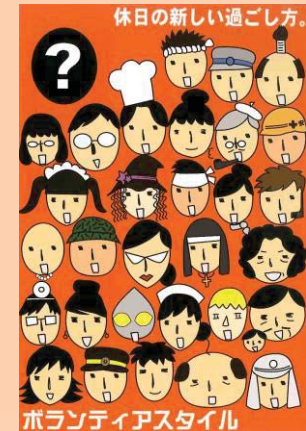
【参加の妨げとなる要因】(n=3,003)(複数回答)



(備考)内閣府 平成25年度「市民の社会貢献に関する実態調査」により作成。

働きざかりの市民のココロをどう仕掛けるか？

- ボランティアスタイル(ボラスタ)とは
- 働きざかりの市民(20~40代)が、市民活動に参加しやすさをプロデュース。
- 休日の新しい過ごし方として、“3時間でできるボランティア活動”をパートナー団体と多彩なメニューで提案
- ほぼ毎週末、大阪・京阪神のどこかで実施。
- 仲間と参加、一人でも参加、などどれでも
- 清掃、多文化、子ども支援、事務応援など参加の「関心」に引き寄せる
- ボランティア経験者(リーダー)と一緒に参加して魅力をナビゲートする。



～「人」のつながり×「人」の成長の社会へ～
働きざかりの市民があつまる
～ボランティアスタイル(ボラスタ)の取り組みから見えるもの

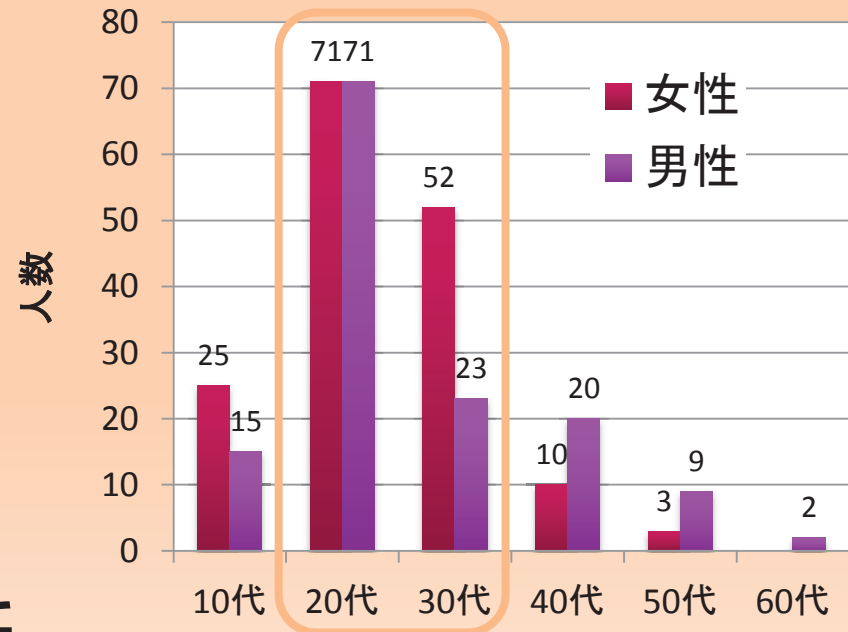
ボラスタ参加者の声

●参加の決め手は何でしたか？

- 1位 活動内容に魅力を感じた
- 2位 単発で参加できる
- 3位 休日である
- 4位 活動が3時間程度
- 5位 自分でもできるかなと思った

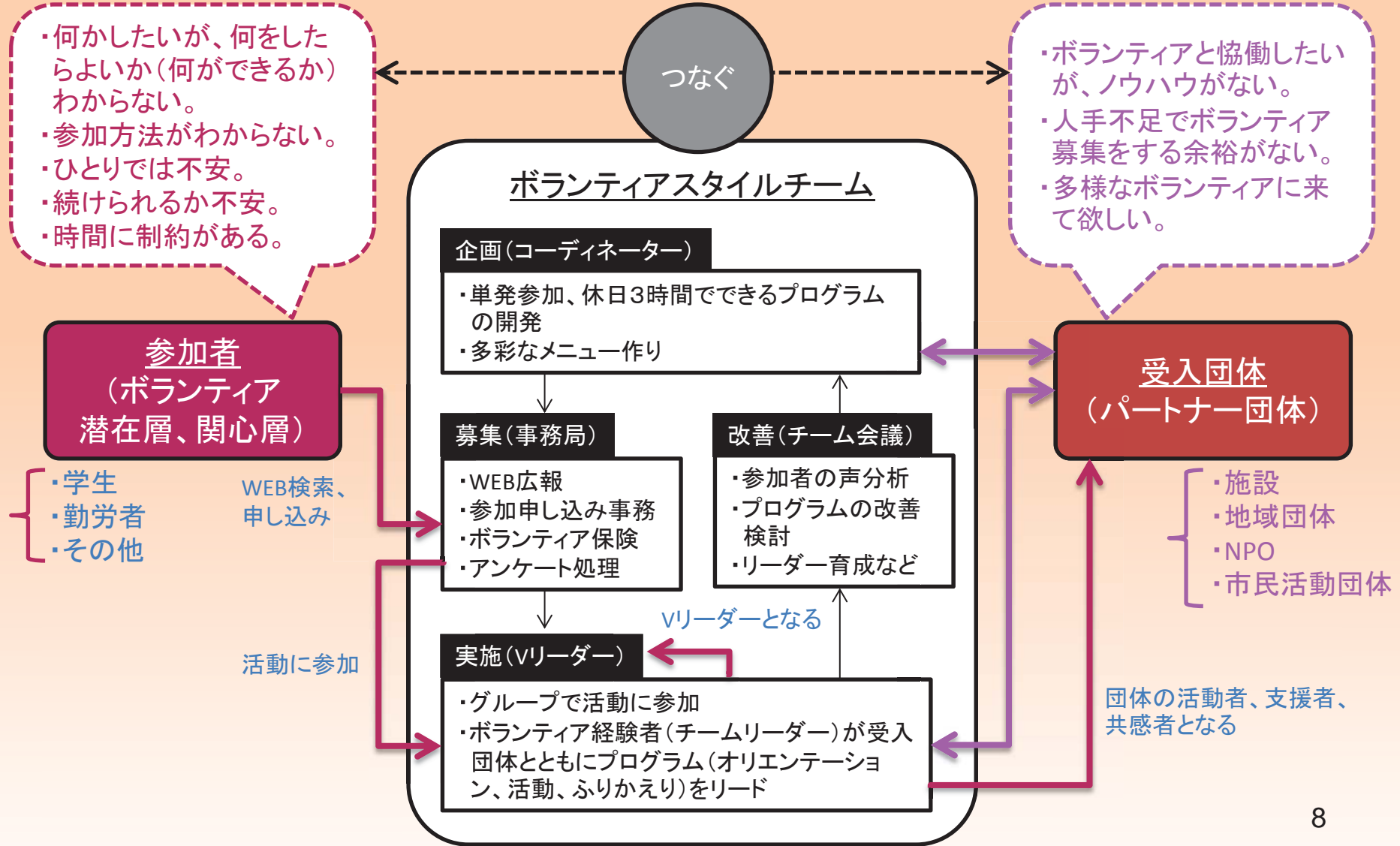
●活動に参加するにあたり、障壁になっていたことは何でしたか？

- ・どんなことをやっているかがわからなかった。
- ・何かしたいと思っても自分が力になれるか不安だった。
- ・単発・短時間があることを知らなかった。長期・継続型が多い。
- ・自分に何ができるのかがわからない。楽しめるかが心配。



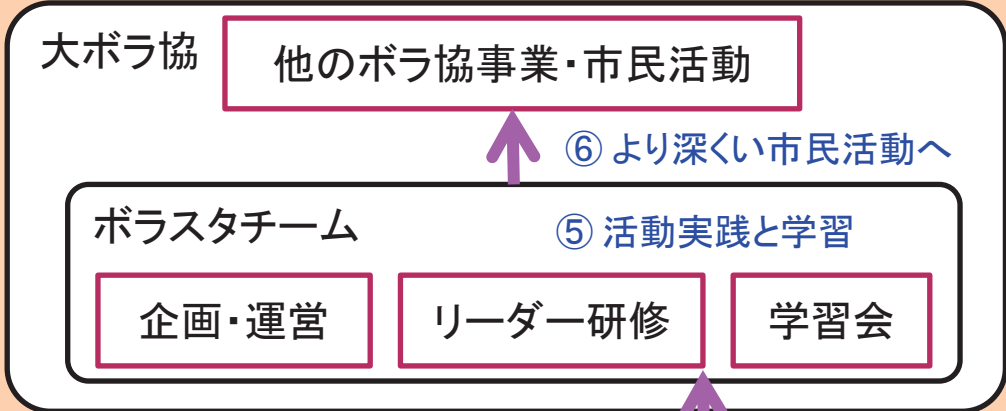
～「人」のつながり×「人」の成長の社会へ～
働きざかりの市民があつまる

～ボランティアスタイル(ボラスタ)の取り組みから見えるもの

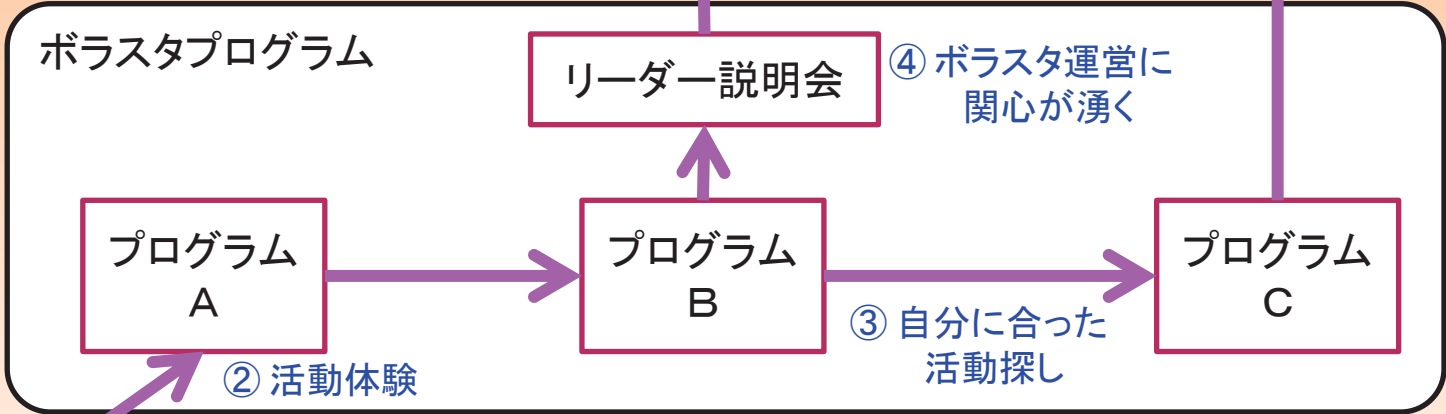


～「人」のつながり×「人」の成長の社会へ～
働きざかりの市民があつまる
 ～ボランティアスタイル(ボラスタ)の取り組みから見えるもの

活動層



関心層



ボランティア潜在層

① WEB検索; key word = 「大阪 ボランティア」

- 1) 参加の仕方がわからない → WEBで簡単申し込み
- 2) 自分でもできるか? → 経験者(リーダー)が同行、丁寧なオリテ&ふりかえり
- 3) 続けるのは大変そう → 単発3時間でOK
- 4) 何かしたいが何をしてもいいかわからない → 多彩なプログラムを用意

“関わろうとする力”を引き出すには

地域で起こっている様々な現状と課題

- ・行政の委嘱等による地域の支え手確保が困難。
 - ▶保護司、民生委員など、担い手が見つからず悩む
- ・地域介護福祉の担い手の今後のむずかしさ
 - ▶20年、中高年女性が支えてきた：今後、地域にいるか。
- ・行政の施策(例：学校の土曜学習等)に必要なとされるボランティア
 - ▶「地域にひらく」：ただ、その地域に「人」はいるのか
- ・NPO法人のボランティア参加の弱さや後継者問題
 - ▶ボランティア「ゼロ」のNPO法人：約3割 (2013年度内閣府のNPO法人実態調査)

“関わろうとする力”を引き出すには

関わってほしい側

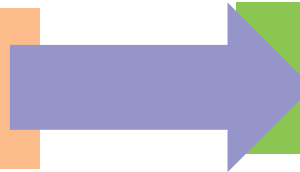
組織の目標達成のために、ボランティアおよびボランティア活動のもつ利点（持ち味）を最大限に生かしたい

関わりたい側

組織において、自分の存在の意味が認められ、主体的に組織の目標達成に参加できる機会と場所

“関わろうとする力”を引き出すには

関わってほしい側



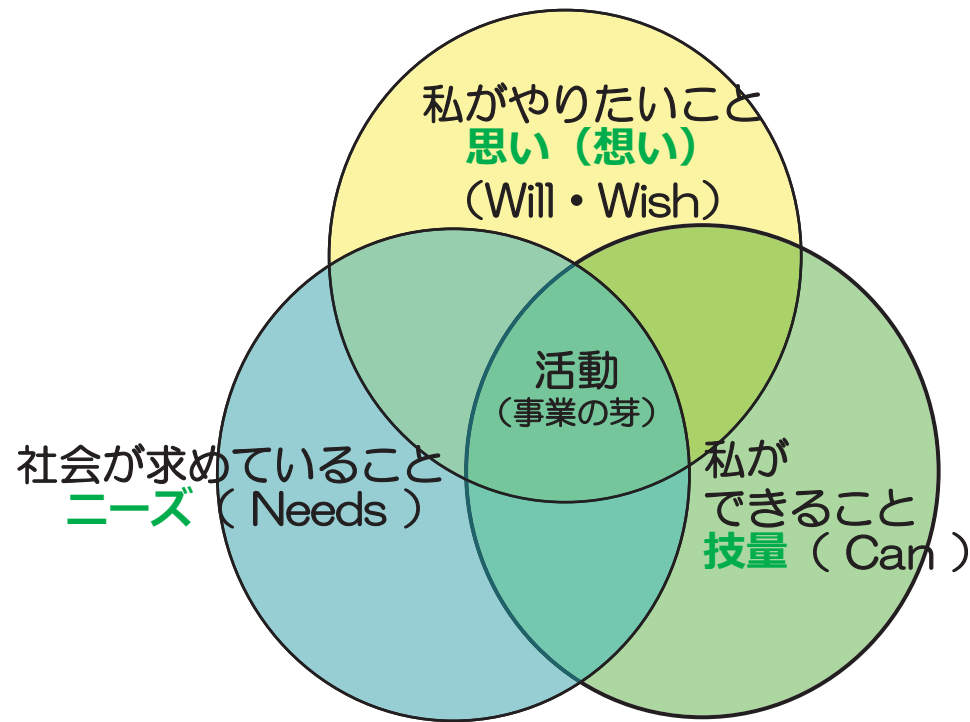
関わりたい側

**社会課題の“解決”に
“参加”の機会を
提供する
という大事な役割**

価値の創造のために…を中心におく

～“関わろうとする力”を引き出すには～

従来に捉われない。関わる側の物語を作る



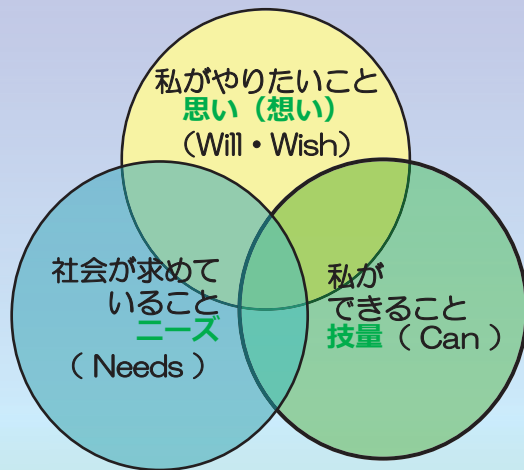
●活発さ、新鮮さが感じられる組織の共通項

- ①対象を絞る
- ②伝わる言葉で課題を見せる、心が動く
- ③活動プロセスが分かる
- ④ゴール(期間等)を示す
- ⑤なりたい自分が「見える」

動機を満たし、課題を克服



～“関わろうとする力”を引き出すには～
従来に捉われない。関わる側の物語を作る



👉 ①対象を絞っている

情報



◆泳ぐ社会貢献
プール・ボランティア (大阪市)

👉 ②伝わる言葉で課題を見せる、心が動く

利他精神

自己成長

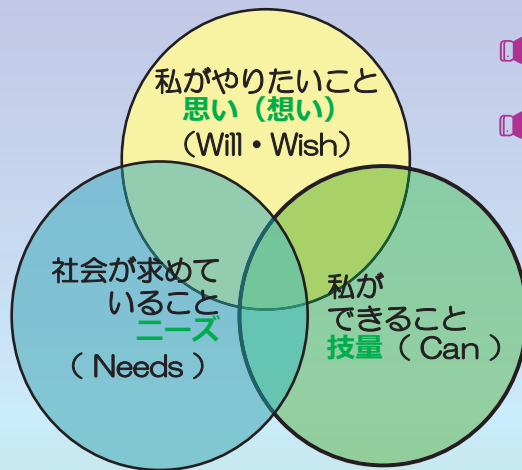
情報

時間



◆寄付×ボランティア×生活困窮支援
とちぎボランティアネットワーク

～“関わろうとする力”を引き出すには～
従来に捉われない。関わる側の物語を作る



- ③活動プロセスが分かる
- ④ゴール(期間等)を示す

時間 負担

自己成長



SERVICE GRANT
特定非営利活動法人 サービスグラント



©Hiroshi OKAMOTO

(大阪市)

- ⑤なりたい自分が「見える」

情報 時間 自己成長

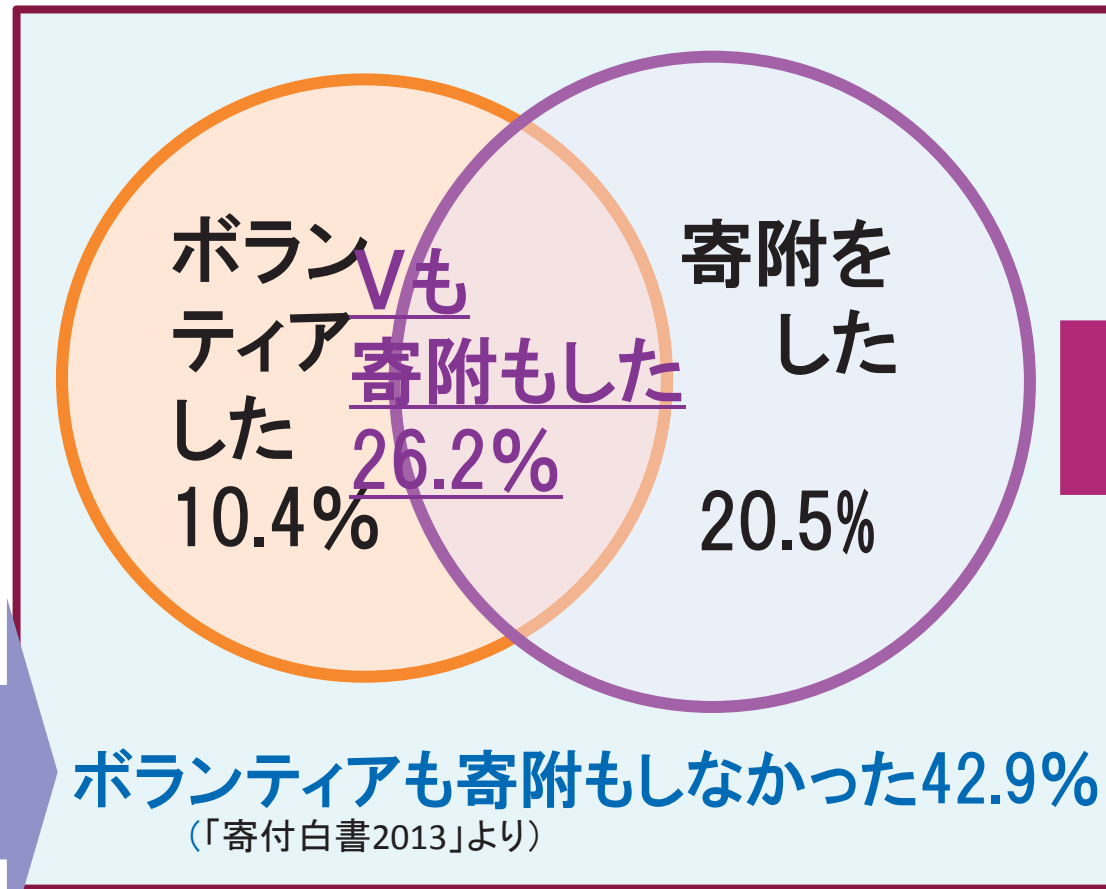
◆通信制高校の学生に寄り添い、
仕事への意欲を高める大人たち

D×P(ディーピー)

～“関わろうとする力”を引き出すには～

参加する⇒つながる⇒広がるという連鎖

ボランティアが“次”の可能性を生み出す



強い組織にあるもの
①ビジョン
②ヒト
③感動

社会課題
解決への参
加促進

ボランティアも寄附もしなかった42.9%
(「寄付白書2013」より)

～“関わろうとする力”を引き出すには～

共助社会づくりに必要なボランティアな力

■今「ある」力を、引き出す

・関わる側のニーズは様々。ボランティア創出の事業に。
今「あるもの(仕組み)」も尊重し、活かす。

- 👉 プログラムづくりのノウハウ移転、共通基盤を共有化
- 👉 都市部層は、利便性を重視した仕掛けづくり。
- 👉 元気な地方は、地域資源を生かしながら、外からも引き入れる。参加を生み出す工夫が必要。

・要援助者も、ある面では援助者に(見守り等に有効)

👉 NPO等でのコーディネーション力アップが急務

(ボランティアコーディネーション力検定等の普及促進など)

👉 ① 外のを借りる ⇔ ② 利用者など内部のを借りる

～“関わろうとする力”を引き出すには～

共助社会づくりに必要なボランティアな力

■新しい仕組みでそそのかす

- ・楽しくないと、続かない。だから、「参加」の階段づくり
 - ☞ 地域の間接支援から、プログラムハンズオンを
 - ☞ 人材育成視点を。知的・経済層、別の層へ仕掛け

■NPO経営力アップカリキュラム(米国の中間支援等):組織経営・リーダーシップ、理事会運営、PR、資金調達、コミュニケーション、WEB、ボランティアマネジメント

■自由さを確保しながら、基盤で支える

- ・参加型の活動を促進するために“あるモノ”活用を
 - ☞ 不動産・空き部屋活用等など
 - ☞ 災害時の高速道路無料化等の公共交通支援の拡大